

岩手大学地域連携公開講座

IT 遠隔教育システム
釜石・水沢でも受講できます

平成16年度 岩手大学農学部農林環境科学科公開講座

環境維持における農産廃棄物への対応 岩手大学の取り組み

受講生募集要項

主催 岩手大学農学部
後援 岩手県
岩手県農業協同組合中央会

1. 開講に当たって

農業生産の過程で発生するゴミ、いわゆる農産廃棄物が私達の環境に悪影響を与えることが心配されています。特に、家畜排せつ物の取り扱いがいま行政の大きな課題になっています。リサイクルの考えにたてば、廃棄物はうまく使えば資源になるわけです。この公開講座では、農畜産廃棄物をやっかいもの扱いするのではなく、むしろ有用資源として利用する、という積極的な姿勢がとれないものか、考えてみたいと思います。

2. 日 時： 平成16年7月24日(土) 13:00~16:00

3. 場 所： 盛岡会場 岩手大学情報メディアセンター図書館2F生涯学習・多目的室
問合せ先・申込先 岩手大学総務部研究協力課公開講座係 Fax: 019-621-6014
Tel: 019-621-6854 E-mail: renkei@iwate-u.ac.jp

釜石会場 釜石市教育センター5F (シープラザ遊となり)
問合せ先・申込先 釜石市教育委員会 社会教育課 Fax: 0193-24-3185
Tel: 0193-22-8835 E-mail: koike1380@city.kamaishi.iwate.jp

水沢会場 水沢市役所
問合せ先・申込先 水沢市教育委員会 社会教育課 Fax: 0197-24-1992
Tel: 0197-24-2111 (内533) E-mail: syakai@city.mizusawa.iwate.jp

釜石・水沢会場はTV会議システムを利用した通信講義となります。質疑応答可能です。

4. 受講対象： 市民一般・高校生

5. 定 員： 盛岡会場60名・釜石会場40名・水沢会場40名

6. 受講料： 無料

7. 受付期間： 平成16年6月21日(月)~7月20日(火)

8. 申込手続： 電話、FAX、Eメールのいずれかで問合せ先までお申込ください。

申込連絡票

環境維持における農産廃棄物への対応

ふりがな 氏名	
連絡先 〒	
Tel ()	
Fax	E-mail

【講義日程】

13:00	開講の辞	挨拶：藤井克己 農林環境科学科学科長・教授
13:10	講義（総論）	農畜産廃棄物の資源としての利用について
13:30	講義	堆肥化の速度を発熱量から見てみる
14:00	講義	散布した家畜排せつ物の環境への影響
14:30	～休憩（15分）	
14:45	講義	環境に配慮した農畜産廃棄物の利用技術
15:15	総合討論	
15:55	閉講の辞	

【内容】

農畜産廃棄物の資源としての利用について

リサイクル生物生産工学講座 助手 前田武己

農畜産廃棄物の利用については、対象物の発生状況やその特質、処理物の利用方法・需要に着目して方法を決定するのが適切です。例えば家畜排せつ物の場合では、家畜によって排せつ物の成分や性質が大きく異なりますし、家畜の飼料を農家が自ら生産しているかが、排せつ物の利用方法を決定する上で大きな分岐点となります。また食品系廃棄物では、コストを考慮しながら、より利用価値の高い方法を採用することが望まれます。

堆肥化の速度を発熱量から見てみる

リサイクル生物生産工学講座 教授 原 道宏

日々大量の家畜排せつ物が出てくるので、堆肥化の速度が遅ければ完熟までにそれだけ日数がかかり、堆肥置き場もそれだけ広く必要になります。堆肥化の速度は発熱量の大小からわかります。したがって、発熱量が最大になるように管理すれば、堆肥化の速度が上がり、時間も場所も節約でき、そのうえ大量の熱が副産物として得られるはずですが、堆肥化の現場における発熱量測定の実際を述べ、最大化と熱利用について考えます。

散布した家畜排せつ物の環境への影響

地域環境デザイン学講座 助教授 登尾浩助

家畜排せつ物の肥料としての利用は営農上からは非常に魅力的な処理法ですが、農地への過剰な散布は地下水など水環境の劣化を引き起こす恐れがあります。3年間の牧草地での試験から、クロボク土は家畜排せつ物から生成される硝酸態窒素（ NO_3^- ）に対してフィルターとして働いていることがわかりました。降雨浸透に伴う短期的な地下水水質への悪影響は観測されませんでした。長期的な影響については引き続き研究の必要があります。

環境に配慮した農畜産廃棄物の利用技術

リサイクル生物生産工学講座 助手 前田武己

農畜産廃棄物の処理・利用過程では様々な環境負荷が潜在します。日本では特に悪臭に対する関心が強いです。アンモニアは水系の富栄養化、メタンや亜酸化窒素は地球温暖化物質として、環境に影響を及ぼします。また堆肥の施用に関しても、散布量やその時期、散布方法によっては、深刻な環境汚染を引き起こします。したがって、農畜産廃棄物の循環利用にあたっては、これら環境負荷に対する理解と対策が必要になります。